

論文審査の要旨

報告番号	乙 第 2922 号	氏名	神田 潤
論文審査担当者	主査 大嶽 浩司 副査 小林 洋一 副査 小風 暁		
<p>従来、重症熱中症の診断基準としては、日本救急医学会「熱中症ガイドライン」記載の熱中症重症度分類Ⅲ度の定義が用いられてきた。</p> <p>神田らは、従来Ⅲ度の定義では、軽度意識障害のみの比較的軽症例から多臓器不全を呈して致命的な超重症例までを同一の範疇に含まれることに着目し、より精密な診断基準として熱中症重症度スコア（以下重症度スコア）を提案した。</p> <p>日本救急医学会が 2006 年から隔年ごとに実施した Heatstroke STUDY の合計 3223 症例を用いて、意識障害、肝・腎障害、凝固障害の臓器別の障害の程度に応じたスコアリングシステムのスコア毎の転帰を、分割表検定と Kaplan-Meier 法により統計学的に検討した。結果は 4 点以上で有意に転帰が悪化することが示された。</p> <p>以上の結果により、熱中症重症度分類Ⅲ度の中から、重症度スコア 4 点以上を超重症として扱うことの妥当性が示唆され、今後は、重症度スコアを超重症の熱中症患者の冷却法、DIC（播種性血管内凝固）の発症、高齢者のトリアージなどの検討に応用することが期待される。</p> <p>本論文は、重症の熱中症患者のスクリーニングに関する新知見を有し、学位論文に値すると判定した。</p> <p>論文題名：熱中症重症度スコアと予後の関係</p> <p>掲載雑誌名：ICU と CCU 第 38 巻 第 6 号 411-417 頁 2014</p>			

(主査が記載、500 字以内)